

SONORA XJ 完全無処理版で 刷版事故率ゼロに

株式会社東海新報社



印刷機の設定を一切変えないという採用条件に SONORA XJ が見事に合致。
1年間の継続運用で損紙を劇的に削減でき、現像関連費用とあわせると、年間
200万円以上のコスト削減を実現。

全国唯一オールカラーの地域新聞を発行

株式会社東海新報社は、岩手県南東部に位置する大船渡市、陸前高田市、住田町を対象に日刊紙「東海新報」を発行する地域新聞社である。1958年の創刊以来、「田舎まんじゅうの味」を社是に、地元住民に愛される「気取らない」「親しみやすい」新聞を発行してきた。2011年3月11日の東日本大震災では、ライフラインが断絶するなか報道機関の責務を全う。翌日にはA3判カラーコピーの号外を製作し避難所に届け、次の日には自家発電装置で輪転機を動かしてモノクロ4ページの新聞を発行した。この震災で読者、広告主共に激減したが、現在では発行部数14,000部まで回復。昨年4月には紙面すべてをフルカラー化するなど、攻めの経営で、地域の復興を支えている。

「SONORA XJは水が絞れ、高濃度インキとの相性も抜群です。事故もなく、極めて安定しています」

印刷設定を一切変えずに刷れると SONORA XJを採用

同社がKODAK SONORA XJプロセスフリープレートを採用したのは、2016年6月のこと。CTPの更新を機に刷版を現像レスタイプに変えて、環境対応とコスト削減の両立を図るためだった。ただ刷版を変え



代表取締役社長 鈴木 英彦 氏



工務局次長 大沢田 毅樹 氏



豊富なカラー写真が魅力の東海新報



最大でカラー 8 頁+モノクロ 4 頁建の印刷が可能な輪転機



SCREEN 社製 CTP で SONORA XJ を出力

て印刷現場が混乱しては意味がないと、従来の現像有り版と全く同じ印刷設定で、同じように刷れることを条件に、2 社コンペを実施した。代表取締役の鈴木英彦氏は、当時を振り返って次のように話している。「テストの結果は明らかでした。SONORA XJ は印刷機の設定を全く変えることなく、何の問題もなく印刷できました。競合製品は長年使い続けてきた現像有り版のメーカーです。テスト前は、両社の製品を半々で使えば良いと思っていましたが、圧倒的な差があってコダックの SONORA XJ を全面的に採用することが決まりました」

工務局次長の大沢田毅樹氏によると「今まで通り普通に刷れるだけでなく、水をさらに絞れる」ことが SONORA XJ の採用につながったという。それは N タワー（大阪印刷機械製作所製）と呼ばれる自社独自の新聞輪転機の構造にもマッチしていた。N タワーとは、2 台の印刷ユニットを縦型配列したタワーを横に並べて、プロセス 4 色を印刷する機器構造のこと。N 字状に紙を通すことから自社では N タワーと呼んでいる。天井高に制限があるなか、タワーをうまく増設することでフルカラー 8 頁建紙面を実現した自社自慢の新聞輪転機である。ただ、タワーからタワーへと紙を渡すので、紙へのストレスを最小限に抑える必要があった。

「カラー写真が多いので、紙の伸び縮みによる見当ズレが心配でした。水が少なければ、タワー間で紙をストレスなく通すことができます。SONORA XJ は、水を絞っても汚れることなく、今まで通り刷れたので即決でした」

汚れが出ると水目盛を上げる。水を上げると濃度が下がるので、今度はインキも上げる。こうした悪循環に陥ることが一切なかったと、同社は SONORA XJ を高く評価した。

SONORA XJ による経費削減効果は年間 200 万円以上

同社では新聞紙面のフルカラー化にあわせて、新たに高濃度インキ（DIC グラフィックス社製 PROUD）を採用した。顔料を多く含む高濃度インキは薄膜印刷が行えるため、裏抜けや裏写りが少なく紙面品質が向上する。インキ使用量も削減できるため、カラー化によるコスト増も抑えられる。SONORA XJ は、この高濃度インキとの相性が抜群だった。水が極限まで絞れ、ドットゲインの影響もなくなったので印刷品質が極めて安定した。紙の伸縮がなく、見当精度も一段と向上した。これにより色合わせ時間が大幅に短縮できるようになり、損紙は約 70% 削減できたと大沢田局次長は話す。

「以前、ヤレの発生率は 12～13% 程度でしたが、SONORA XJ を採用してからはわずか 4% 程になりました。1 年間のコスト削減効果は紙だけで 150 万円以上にも達します。現像液の購入や廃液処理にかかる費用などを含めるとトータル 200 万円以上の経費削減につながっています」

さらに現像工程がなくなって、印刷トラブルも激減した。現像ムラやローラー汚れ、ガムの固まりによる汚れなどに起因する刷版事故率はゼロになり、今では輪転機を止めてローラーや刷版の汚れを拭くこともなくなった。現像ミスや取り扱いミスによる刷版の再出力は、導入以来全くないという。現像液の濃度管理、薬液の交換、洗浄作業の手間も一切なくなり、組版・製版部門の負担も軽くなり残業時間も大幅に減ったという。

地域と共に歩むハイパーローカルメディア

フルカラー化の英断が功を奏して、東海新報の広告出稿量は確実に増加した。エリア人口が減って発行部数そのものは震災前より少なくなったが、購読率はアップしているという。新聞業界の苦境が伝えられるなか、地域新聞には揺るぎない価値があると鈴木社長は指摘する。

「投資家のウォーレン・バフェットが米国のローカル新聞 63 紙を買収したというニュースが示すように、ハイパーローカルメディアとしての地域新聞の価値が見直されつつあります。地元で起こった出来事を地元の読者に伝えることは私たちにしかできない仕事です。地域のコミュニティを支え、共に生きることに地域新聞社の唯一無二の価値があるのです」

ハイパーローカルメディアとして価値を読者に提供する東海新報社の挑戦を、コダックの技術が支え続けてゆく。



株式会社東海新報社

代表取締役社長：鈴木 英彦

〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字鷹頭 9-1

TEL: 0192-27-1000 (代)

FAX: 0192-27-2154

<http://www.tohkaishinpo.com/>

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2017-09

